



食品機能性を探る研究が紹介された発表会

帯広畜産大の大西正男教授が研究発表。ジャガイモからでんぷんへの加工過程で生まれる副産物を使った事例などを紹介し、「十勝地域の産業活性化に

つながることを目指したい」と語った。

このほか、城西大の和田政裕教授が「食品の健康増進効果、疾病予防効果を探る」と題して、北大の宮下和夫教授が「海藻脂質の多機能性と有効活用」と題してそれぞれ発表。出席者は研究成果を基に商品化された食品などを試食し、交流を深めた。

（井上朋一）

## 産学官連携の促進へ研究発表

60人参加し地域開発交流会

道内や十勝圏内の産学官連携を目指す「2006年度地域研究・技術開発交流会」（主催・道、共催・十勝圏振興機構など）が9日午後1時半から、帯広市内の十勝産業振興センターで開かれた。研究者、企業関係者ら約60人が出席し、食品に関する最近の研究内容を学び、交流を深めた。

十勝エリアと函館エリアで、文科省による都市エリア産学官連携促進事業が実施されている。食品の機能性に関する研究などを進めるもので、交流会は地域間連携などを促進する狙い。